

PFII・PPPに関する 地域ワークショップを開催

▼金融機関にとって重要な顧客である国、地方自治体等の公共機関では、財政的な制約がある中でインフラの老朽化が課題となっています。そうした課題への対応と共に地域の活性化を図る手法としては、PFII（注1）のみならず、幅広く多様な公民連携（PPP含み）が考えられます。

▼日本銀行金融機構局金融高度化センターでは、二〇一四年十二月十六日に、「公民連携ファイナンスの展開—PFII・PPP等への取組み—」と題する金融高度化セミナーを開催しましたが、その後、同様のセミナーの地方開催に関する要望を数多くいただきました。これを踏まえ、金融高度化センターでは、支店・事務所と連携し、「PFII・PPPに関する地域ワークショップ」を適宜開催



鳥取会場で開会挨拶する木村松江支店長



前橋会場で開会挨拶する富田前橋支店長（右、開催当時）と北村企画役（左）

していくこととしました。

▼地域ワークショップの第一回は、前橋支店と連携して二〇一五年三月二十四日に前橋市で開催しました。また、第二回は、松江支店および鳥取事務所と連携して四月二十日、二十一日に松江市および鳥取市で開催しました。各回とも地域金融機関や地方自治体の方々などを対象としており、参加者数は第一回が約二〇名、第二回が約一七〇名でした。

▼地域ワークショップでは、支店長（第一回：富田^{あつし}、前橋支店長、開催当時）、第二回：木村武松江支店長）による開会挨拶の後、北村佳之金融高度化センター企画役が「公民連携ファイナンスの現状と課題」と題して講演し、参加者と意見交換を行いました。参加者からは、「PFII・PPPの先進事例を詳しく知ること

ができた」、「公民連携の推進に際して、地域金融機関の果たすべき役割が大きいことを改めて強く感じた」といった声が聞かれました。

▼以上の地域ワークショップの講演および意見交換の要旨・資料は、日銀HPPの「金融システム」→「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

『大学生のための 人生とお金の知恵』を発行

▼日本銀行は、お金に関する情報提供や学習支援を行う「金融広報中央委員会」の事務局を務め、その活動を全面的に支援しています。

▼金融広報中央委員会では、二〇一五年三月、『大学生のための人生とお金の知恵』というパンフレットを新たに作成・発行しました。

▼このパンフレットは、大学生に向けて、自立して生きていくうえで役に立つ「人生とお金」に関する知恵を幅広く紹介したものです。

▼まず、第一部「人生のデザインとお金」では、高校卒業までにどのくらいお金がかかったか、大学ではいくらかかるかを知り、身近な例から現実的な金銭感覚を養うとともに、

大学生のための 人生とお金の知恵



大学で能力を高める必要性について考えます。また、生涯の収入や支出のイメージを描きながら、働くことの意義を考え、人生のデザインを描く重要性を学びます。特に三〇歳の時にどんな自分になっていたかを考え、そのために今どのように行動すべきかを考えます。

▼次に、第一部「お金の知恵」では、お金とうまくつきあいながら生きていくために必要な基礎的な知恵を身につけます。お金の機能や特徴を理解することから始め、収入や支出を把握する方法や、お金の使い方を見直すコツなどを学びます。また、貯蓄・運用や、借入れ、保険といった金融取引のための基本的なノウハウも身につけます。

▼最後の第三部「不確実な人生に船出する」では、人生の不確実性というリスクに向き合いながら適切に意

(注1) Private Finance Initiative、民間事業者が資金を調達し公共事業を行うもの。

(注2) Public Private Partnership

思決定していくための考え方を学びます。例えば、リスクなくしてリターンは得られないといった「リスクとリターンの関係」を学び、幸せを実現するために、リスクをコントロールしながらチャレンジすることの大切さを理解します。損失だけが発生するリスクに対しては、回避する方策や、損失に備えて貯蓄したり保険を利用したりするといった対策を学びます。人生の不確実性を前提に整備されているセーフティネットのしくみを理解し、お金に関するトラブルを避けるための知恵も身につけます。

▼金融広報中央委員会では、本パンフレットを使用して大学における講義（新入生向け説明会等を含む）を実施しています。大学教員や金融関係団体が副教材として本パンフレットを活用する例も増えています。パンフレット送付ご希望の方は次のメールアドレス宛てにご請求ください。

【請求先メールアドレス】
books@saveinfo.or.jp



こちらからPDF ファイルをダウンロードすることもできます。

「日銀春休み親子見学会 二〇一五」を開催

四月二日（木）、三日（金）

▼日本銀行本店では、春休み期間中に、小学校四〜六年生や中学生のお子さまとその保護者の方を対象に、「日銀春休み親子見学会二〇一五」を開催しました。二日間計四回の開催で、約八〇組の親子の皆さまにご参加いただきました。

▼日銀の役割や仕事についての紹介ビデオを見ていただいた後、国の重要文化財に指定されている本館や実際に業務を行っている新館営業場を見学していただきました。

▼また、今回新たに、金融広報中央委員会の方を講師に迎えて「大切なお金の知恵」と題し、小学生はおこづかい帳の使い方を通して、中学生

「マイクロ文字」や「すかし」が見つかりましたか？



は生まれてからこれまで自分にかかったお金を振り返りながら、お金の大切さについて考えていただきました。

▼最後に体験学習として、三つのプログラムをご用意しました。

①安心してお札が使えるように施されている「偽造防止技術」を、実際にお札を「触って、透かして、傾けて」確認していただきました。インキが盛り上がるように印刷されている「深凹版印刷」やその技術を使っている「識別マーク」、「マイクロ文字」など、さまざまな「ヒミツ」を見つけていただきました。

②実際に「鑑査」の仕事をしている発券局の職員を講師として招き、お子さまたちにも「お札の数え方」を体験していただきました。

③「一億円の重さ体験」では、一億円パック（模擬券）で、本物と同じ一〇キログラムの重さを体験していただきました。

▼約二時間のプログラムを終え、「二



セ札が作られないようにいろいろな工夫があることがわかった」、「短時間で日銀の機能を知ったり、建物を見たり、体験をしたりと盛りだくさんでも充実していた」、「春休みのいい思い出になった」などの声が聞かれました。お金や日銀についてご家庭で考えるよいきっかけとなっ



「縦読み」は、本物かどうか、傷み具合はどうかを確かめながら数える方法。みんなも上手に数えられるかな？

編集後記

■5月19日をもって情報サービス局長を退任し、本号の編集が編集長としての最後の仕事となりました。2年間ご愛読頂き有難うございました。微力ながら、創刊当初の本誌の思いでもある、「将来の社会経済を展望するうえで様々な示唆を与える情報」を、分かりやすくご提供出来ればと思い、編集に取り組んでまいりました。取材にご協力頂いた多くの方々に改めて御礼申し上げますとともに、無理難題をいつもクリアしてくれた同僚やライター、カメラマンなど編集関係者の皆さんにも感謝したいと思います。(丹治)

■このたび編集長に就任しました。日本銀行の仕事はとても幅広く、「金融政策」や「日本銀行券」以外にも皆様との接点がたくさんあります。私自身、これまで日本銀行の本支店において様々な仕事を経験してきましたが、どの仕事に従事しているときでも皆様とのつながりを常に肌で感じてきました。「にちぎん」では、日本銀行の活動を分かりやすく、親しみやすい表現でお伝えすることによって、日本銀行をより身近な存在として感じていただけるように創意工夫を凝らしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。(高橋)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2015年夏号
編集・発行人 高橋経一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

たようです。
▼毎回好評をいただいております親子見学会の次回の開催は、夏休み期間中の七月二十七日(月)～三十一日(金)を予定しています。
▼「日銀って何をしているところ?」というお子さまの好奇心にお応えできるようなプログラムをご用意しております。
▼参加は無料です。お申し込み方法などの詳細は日銀HPにてご案内しています。皆さま
まのお越しを心よりお待ちしております。



「第二一回 日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 論文募集中

応募締切：九月三十日(水)

▼「日銀グランプリ」は、日本銀行の金融教育充実に向けた取り組みの一つとして、学生の皆さんを対象に二〇〇五年から毎年開催している、金融・経済分野の論文・プレゼンテーションコンテストです。
▼「わが国の金融への提言」をテーマとし、今年度も論文を募集しています。このテーマに沿っていればどのような提言でも構いません。二〜四人を一チームとし、規定に沿って



ご応募ください。
▼書類審査を通過したチームは十二月上旬頃に予定している決勝大会において、日銀副総裁や政策委員会審議委員、外部有識者の方の前でプレゼンテーション、質疑応答を行っていただきます。
▼日銀HPには、過去の決勝大会の様子を動画で配信しているほか、過去の入賞論文やその審査員講評についても掲載しています。

▼応募に当たっては、日銀HP上の応募方法をよくお読みください。多

くの学生の皆さんからの斬新な提言をお待ちしております。

「親子見学会・日銀グランプリの
お問い合わせ先」

日本銀行情報サービス局
総務企画グループ
〇三―三二七―二四〇五

主筆 日本銀行
キャンパスからの提言
第11回
日銀
グランプリ
学生のための小論文・プレゼンテーションコンテスト
課題「わが国の金融への提言」
日銀グランプリは、日本銀行が主催している、学生が皆さんを対象とした金融経済の
小論文・プレゼンテーションコンテストです。多くの皆さんが応募を希望しています！
応募資格 高校1年生～大学4年生までに在籍している学生が対象です。
賞品賞状 第1～4位1名ずつ賞状が贈られます。
2～4位1名ずつのグループ賞も贈られます。
掲載内容 最優秀賞/1チーム(団体) 賞状カード15万円
優秀賞/2チーム(団体) 賞状カード5万円
特別賞/1チーム(団体) 賞状カード3万円
http://www.boj.or.jp/ no.9/30 ans